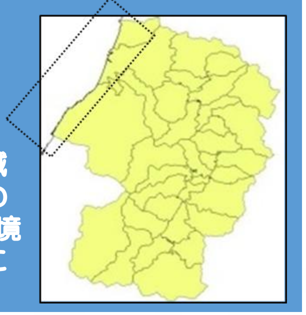
山形海域　藻場ビジョン

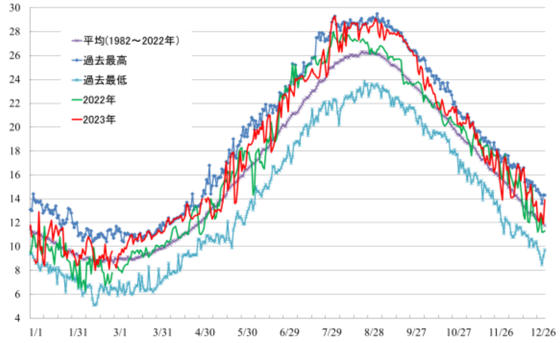
藻場の保全・造成に向けた行動計画

【目標】山形海域の藻場環境は現在のところ安定していると考えられる。しかし、植食性魚類の増加やウニの大量発生、藻場構成種の変化等、海域環境の変化によっては、今後大きく藻場が衰退する可能性がある。現在の藻場（372ha）をピークと捉え、これを維持し、藻場の構成種と海域環境を記録し、データを蓄積していくことによって、今後磯焼けが生じた際に対策が迅速に講じられるようにする。



本県の藻場はホンダワラ類を主体とするガラモ場だが、沿岸域の年間平均水温は上昇傾向にあり最高水温28℃を超える年もある。ホンダワラ類の適水温は13～24℃のため将来的にはガラモ場消失の恐れがある。

ガラモ場のホンダワラ類



栽培センター水温の推移

山形地区藻場保全に対する実施体制

①藻場の造成・拡大（ハード事業）

岩盤が不足し、藻場の少ない場所への着定基質の設置

実施主体：山形県農林水産部 水産振興課（水産環境整備事業）

＋

②藻場の維持・回復（ソフト事業）

母藻の設置、食害生物の除去、モニタリングなど

実施主体：藻場保全団体（水産多面的機能発揮対策事業）

検討会議

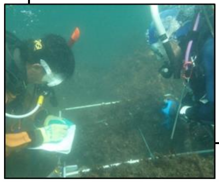
着底基質設置後の状況把握

モニタリング結果の情報提供
活動への助言・指導

③状況把握

藻場の繁茂・変遷状況の把握
食害状況の把握

実施主体：山形県水産研究所



効果調査

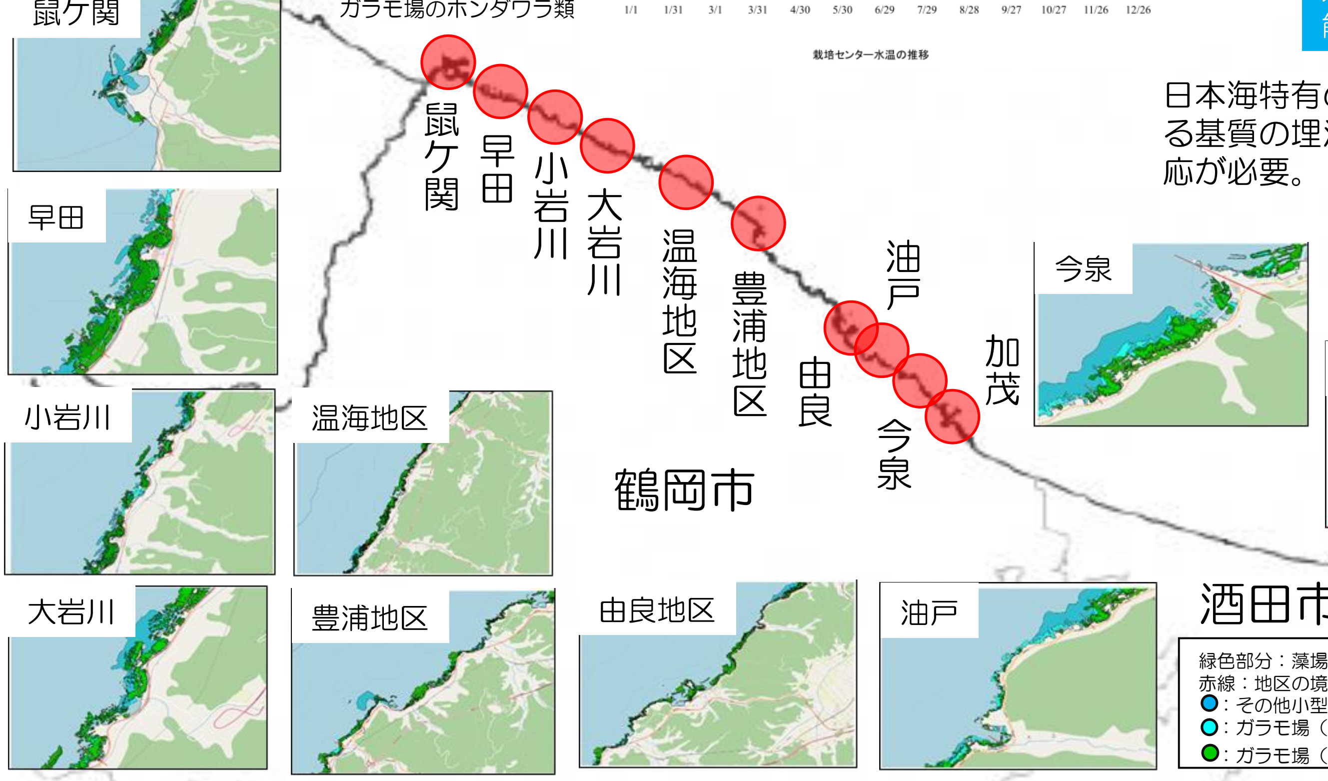
食害生物の除去

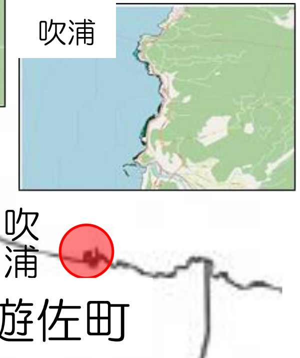
水産環境整備事業や水産多面的機能発揮対策事業などの活用

日本海特有の高波浪による藻体の流出、漂砂による基質の埋没など藻場衰退につながる要因への対応が必要。

ウニの食害

砂の堆積





緑色部分：藻場
赤線：地区の境界線
●：その他小型藻類（H30）
●：ガラモ場（H30）
●：ガラモ場（R2）